

提出 21年 8月 7日

会合議事録

研究会名：第3回X線励起原子分解能ホログラフィー研究会

日 時：2009年6月6日(土) 14:00～17:00

場 所：SPring-8, BL39XU 実験ステーション

出席者：林 好一(代表、東北大)、松下智裕(副代表、JASRI)、鈴木基寛(JASRI)、
細川伸也(広島工大)、八方直久(広島市大)、三村功次郎(大阪府大)、
上坂彰朗(東北テクノアーチ)、内富直隆(長岡技大) 計8名

議題：A) TmCoCa の講習会、B) 2010年3月シンポジウム開催について
C) 金属材料研究所におけるワークショップの開催

議事内容：

1 TmCoCa の講習会

本研究会副代表である松下氏が、最新の原子像再生アルゴリズムである SPEA-MEM(TmCoCa)の講習会を上記出席者に対して行った。これにより、蛍光X線ホログラム及び逆X線光電子ホログラムからの原子像再生に対する最適なパラメータの設定などに関する知識が深まった。また同時に、講習を受けたものから、SPEA-MEM(TmCoCa)の機能に対して、いくつかの要望があった。

2 2010年3月シンポジウム開催について

光電子ホログラフィーや蛍光X線ホログラフィーの普及を推進するため、2010年の春に行われる学会において、“原子分解能X線励起ホログラフィー”をメイントピックとしたシンポジウムの企画に関する話し合いを行った。案として最も有望なのが、日本物理学(2009/3/20-23,岡山大学)における領域5、もしくは、領域10におけるシンポジウム開催である。約5件の招待講演者(具体的には決まっていない)による発表(40分程度)を、午後1:00～5:00程度の時間で行うことを柱とすることなどを話し合った。

3 金属材料研究所におけるワークショップの開催

全国共同利用研究機関のひとつである東北大学金属材料研究所には、ワークショップの開催において補助金のできる制度がある。規模としては、20件程度の発表件

数が必要であるが、“原子分解能 X 線励起ホログラフィー”だけでなく、関連技術にまで枠を広げても良いと考えられる。申請は 2009 年 11-12 月上旬であり、採択されればワークショップは、2010 年度に行うことになる。今後、状況を見つつ、具体的に計画を立てていくことを話し合った。